

編集後記

本号で第 11 号を迎えることになった。最初に掲載した田中論文は、名古屋大学教育学部における集中講義「わが国における人間的成長のための施策史」（2014 年 8 月）をもとに執筆されたものである。この集中講義には約 15 名の大学院生、学生が受講した。

Kerstin Littke と Per-Olof Thång の論文は、スウェーデンにおいて、近年大きく発展している高等職業教育 (Yrkeshogskola) に対して質的な検討を行なった論考である。この論考は、2013 年 9 月に私がスウェーデンのヨーテボリ大学教育学部にある職業教育・訓練に関する研究センターを訪問した際に依頼して投稿していただいたものである。なお、Kerstin Littke 氏は、地方自治体において高校の徒弟教育の取り組みをながらく発展させてきた人物で、2014 年 5 月 5 日、6 日に名古屋大学教育学部において開催した「北欧諸国と日本における新しい職業教育・訓練制度の動向に関する第 1 回国際会議」でスウェーデンの高校における徒弟教育の取り組みの経験について報告していただいた。この報告の内容については、今年度の科研の中間報告書において公表する予定である。また、本号の最後に掲載した、高橋保幸氏の論考は、2014 年 8 月 23 日にルンド大学経済史学部において開催された第 4 回日瑞職業教育・訓練セミナーでの英文報告を日本語に直したものである。

本号には、ロシアの研究者の論考が 2 本掲載されている。これらは、第 10 号に掲載したロシア語の論文の英文版である。第 10 号に掲載する余裕がなかったため、本号に掲載した。

現在、本研究室には、ストックホルム大学教育学部のペトロス・ゴウゴウラキス准教授が名古屋大学教育学部客員准教授として滞在し (2014 年 10 月～12 月)、2 つの講義 (「技術教育学講義 2」と「世界の教育」(G30 のための講義)) と、筆者との共同研究 (高等職業教育に関する日瑞比較) に取り組んでいる。この成果について、次号に掲載できればと考えている。

最後に、本研究室の博士課程大学院生の坂本学之さんが、今年 10 月に開催された産業教育学会の研究大会において、桐原賞 (若手奨励賞) を受賞した。本研究室の歴史の中で初めてのことであり、快挙であった。坂本学之さんは、その後 11 月 1 日より、宇都宮大学に特任研究員として就職した。彼の今後の研究の発展が期待される。

また、同時に私がオルガナイザーとして取り組んでいる科研「北欧における職業教育・訓練の改革に関する総合的研究——徒弟教育を中心に——」の共同研究者の一人であり、この共同研究にさまざまなアドバイスをいただいた篠田武司先生 (立命館大学産業社会学部教授、経済原論) が 11 月 14 日に急逝された。この科研の共同研究を遂行していく際に多くの貴重な貢献をしていただけてきただけに、大きな喪失感につつまれている。故人の冥福をお祈りするとともに、この科研の共同研究をさらに発展させることを改めて決意するものである。

技術教育学研究室

横山悦生